

「令和5年度いわて新農業人チャレンジファーム第10回研修を開催しました！」

第10回の研修は、令和5年7月21日(金)、22日(土)に、雫石町南畑のコテージむらで行いました。

今回の研修は、「岩手の花き栽培について」と題し、八幡平市花き開発研究センター兼一般社団法人安代リンドウ開発の阿部潤氏から、本県の花き生産の現状やリンドウ栽培の歴史等について、講義していただきました。

本県の花き生産は、リンドウと小ギクが8割を占めており、いずれも露地で栽培されていることが特徴であるとの説明がありました。

また、リンドウの栽培は、本県では、昭和35年頃から岩手町や雫石町で始まり、52年に岩手県が国内初のF1品種「いわて」を開発したことにより日本一の産地となり、その継続につながっているそうです。

現在は、AIを活用した自動選花機を導入し、省力化の促進を図っているとのことでした。

このような取組により、生産量は全国1位で、全国シェアの約6割を占めているという紹介に、受講生は、花き栽培に対して興味を深めたようです。

阿部氏からは、「生産者は消費者でもある。生産物をどこにどのように販売するか、これまで以上に発信していくこと、また、先入観を捨て、それぞれが自由なアイデアで需要を創り出して、提案してくることが大切」とのお話をいただきました。

実習は栽培野菜の管理を行い、土曜日コースの受講生は前回、雨天につき延期になった、にんじんの種を行いました。トマト、ピーマンの収穫が始まり、受講生はより研修に意欲を持ち臨んでいるようでした。

次回の研修は、8月4日(金)、5日(土)に、暑熱・台風対策に関する講義、実習ではキャベツの定植、だいこんの種、栽培野菜の管理を行う予定です。



講義「岩手の花き栽培について」の様子



トマトの誘引作業の様子



トマトの収穫の様子



ピーマンの収穫の様子